



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

「コロナ禍の キャリア教育・地域人材育成について」

Keyword : キャリア教育 ライフキャリア キャリアデザイン

発表者 国立大学法人 島根大学

地域未来協創本部 人材育成・キャリアデザイン部門

部門長・准教授 丸山 実子（まるやま じつこ）

本発表は、大学ではなく個人の見解であることをご了承ください。

概要

- コロナ禍におけるキャリア教育について、**島根大学で開講しているキャリア教育系科目の一部について取り組んだ内容について報告**します。2020年度、キャリア教育の授業のみならず殆どの授業がオンライン化となりました。**2020年オンデマンドで上手くいかなかった点を改善して臨んだ2021年度の取組では、教材は各自で印刷する指示を変更し、「専用テキスト」の事前配布を行ったうえで同時発信型オンライン授業を行った実例を紹介**します。
- **最後に高齢者が多い島根県**（高齢化率ランキングは全国1～3位）で学生が**地域に出向き課題解決を行うキャリア教育として「中山間地域フィールド演習」**について**コロナ禍での現状と展望**にもふれます。

国立大学法人 島根大学

- 島根大学（しまねだいがく、英語: Shimane University）は、島根県松江市西川津町1060に本部を置く日本の国立大学で1949年に設置。
- **大学の略称は島大（しまだい）**
- **島根大学**は、松江キャンパスに法文、教育、人間科学、総合理工、生物資源科学の5学部、出雲キャンパスに医学部があり、文系、理系、医系に関わらずほとんどの学問領域において教育を提供している**総合大学**です。
- **学生数5,245人**（本学HPより R3 5 / 1 現在）。

2020年度

- 殆どの授業をオンラインとして実施（9割）
- 対面（実習・実験）実施は殆ど延期・中止



2021年度

- オンライン→対面への戻り（6割）
- 延期・中止となっていた分野は対面となる
（人数制限がかかるため同一内容複数実施）



今回紹介する科目 (教養育成科目)

▼ 「ライフキャリアデザイン」

※2019年までは「キャリアデザイン」

(同一内容で A・B・Cと表記し3講座設置)

▼対象：全学年 全学部・学科

▼受講者：80～100人

▼コロナ禍前の最高受講人数は約200人

科目の位置づけ

<教養育成科目>

- 入門科目

自らの専攻とは異なる領域も含めた幅広い学問分野に関する知見を得ることで、専門分野や現代社会をより多面的にとらえる視点を養うことを目的とする。入門科目は、主に講義形式をとる授業によって構成されており、各分野の教員から多様な学問知を吸収し、大学で学ぶための基盤を形成することができる。

- 発展科目

入門科目をふまえて、さらに深い教養を身に付けるとともに、既存知識を統合し、生涯にわたって主体的に学ぶ基盤の構築を目的とする。発展科目は、統一テーマのもとに複数教員が多様な視点から講義をするオムニバス形式の授業、自らの意見や調査結果を発表するゼミ形式の授業、他者と協調して学ぶグループ学習の授業など、授業への主体的参加が求められる授業からなり、多様な知識を統合し、応用する力を身につけることができる。

- 社会人力養成科目

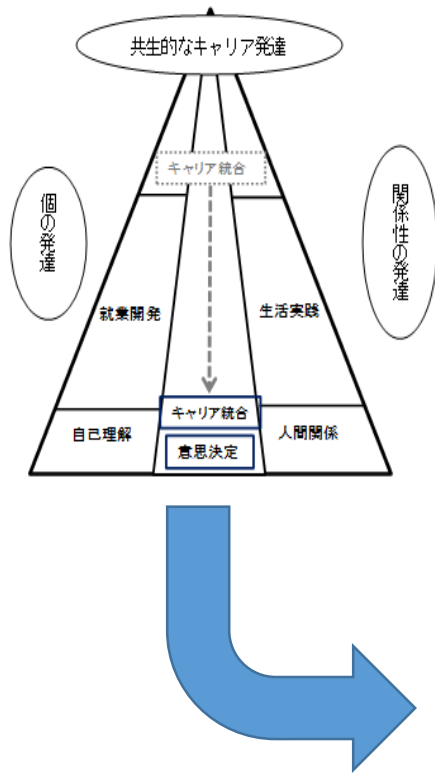
現代の市民社会に主体的に参画し、社会人として活動する上で必要な知識や能力を培うことを目的とする。個人としての人生を展望するとともに、他者と社会を構成する上で必要な知識や態度を身につけることができる。

① ライフキャリアデザイン内容

ライフキャリア

(人生の積み重ね) を予測し
デザインする力を育む。

② ライフキャリアデザイン構成



領域		単元名
1	「意思決定」 「キャリア統合」	「将来のビジョンを描こう」
2	「自己理解」	「自分をみつめよう」
3	「人間関係」	「関係性をみがこう」
4	「生活実践」	「生活を創造しよう (消費者・生活者として)」
5	「就業開発」	「仕事を創造しよう」
6	「キャリア統合」	「ライフキャリアを統合的に デザインしよう」

③2020年

「ライフキャリアデザイン」シラバス



回	授業日	能力領域	内容
1	4/10	将来のビジョンを描こう (意思決定) (キャリア統合)	「キャリア」と「ライフキャリア」の理解
2	4/17		職業とお金についての理解
3	4/24		将来を見通しライフキャリアのビジョンを持つ
4	5/8	自分をみつめよう (自己理解)	自己理解を深めるためのアセスメントテスト実施
5	5/15		アセスメントテスト結果を基に自己分析
6	5/22	関係性をみがこう (人間関係)	他者とのコミュニケーション方法の理解-1
7	5/29		他者とのコミュニケーション方法の理解-2
8	6/5		話し合い活動 (グループディスカッション)
9	6/12	生活を創造しよう (生活実践)	男女のライフキャリアデザインについての理解
10	6/19		ヘルスケアについての理解
11	6/26		金銭管理 (消費者として責任ある行動) についての理解
12	7/3	仕事を創造しよう (就業開発)	社会に出て働く世界について理解しよう【DVD】
13	7/10	ライフキャリアを統合的にデザインしよう (キャリア統合)	自分の目標や進路についての理解と計画 (グループ発表)
14	7/17		プレゼンテーション, 授業のまとめ

[わたし:]

]のライフキャリアデザイン [学生番号

] (ゼミ又は担当教員:

先生)

ライフステージ		探求→確立 (24歳迄)			確立→維持 (25歳~44歳)	維持→衰退 (45歳~64歳)	衰退65歳~
○年後		1年後	2年後	3年後			
西暦		2020年	2021年	2022年			
わたしの年齢		() 歳	() 歳	() 歳			
世の中の出来事		東京オリンピック					
自分にとっての出来事	どんな出来事がおきて、どんな自分になっているか。どんな気持ちになるかなど。						
家族	彼・彼女・夫・妻						
	祖父/祖母						
	父/母						
	兄弟・姉妹 ペット						
恋愛/結婚	どんな人と恋愛・結婚をするか。						
出産	子供の有無 ・性別 ・人数など						
子供/孫	自分の子供や孫の年齢						
お金	出金 (貯蓄・支・費・貯蓄)						
	奨学金返済額						
家	賃貸						
	持家						
車	マイカー						
その他考えられる事柄	取得したい資格						
	行きたい場所 (国内外: 場所)						
	転職有無 多様な働き方						
役割	子ども						
	学生						
	職業人						
	配偶者						
	家族人 市民 余暇人						

終えたらチェックする □4/24, □5/8, □5/15, □5/22, □5/29, □5/31, □6/5, □6/12, □6/19, □6/26, □7/3, □7/10,

島根大学 (ライフキャリアデザイン)

想定していたライフキャリアデザインシートの例



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

ライフワーク	2018	2019	2020	2021	維持 (25歳~44歳)	維持→衰退 (45歳~64歳)	衰退65歳~
○年後 西暦 年齢	1年後 2017年 (21)歳	2年後 2018年 (22)歳	3年後 2019年 (23)歳	4年後 2020年 (24)歳	5 27 29 30	40 45 48 49 50	60 65 70 75 80
世の中のでき事							
自分にとっての出来事	実習 勉強	教採	仕事を				退職 身のまわりの整理 遺言を書く 老人ホームに入る 死亡
恋愛/結婚	恋愛						
出産							
子供/孫							(24) (8) 53 (男) 51 (女)
お金							
家							
車							
家族							78 76 74
その他考えられる事柄							
役割							
チェック	<input type="checkbox"/> 10/26, <input type="checkbox"/> 11/2, <input type="checkbox"/> 11/9, <input type="checkbox"/> 11/16, <input type="checkbox"/> 11/30, <input type="checkbox"/> 12/7, <input type="checkbox"/> 12/14, <input type="checkbox"/> 12/21, <input type="checkbox"/> 1/4, <input type="checkbox"/> 1/11,						島根大学 (キャリアデザイン)

2020年度の結果は
想定外の
無実施の学生多。
(涙)



改善に向けて 授業の方法 (オンデマンド型→同時発信型へ)

2020年

2021年

手法：『オンライン』
オンデマンドのみ



手法：『オンライン』
・ オンデマンド型 (初回のみ)
・ 同時発信型

使用：

- ・ Moodle2020
- ・ Zoom (レコーディング機能)

使用：

- ・ Moodle2021
- ・ Zoom (レコーディング機能)
- ・ Zoom (リアルTime/同時発信)

上手く行かなかった2020年

→2021年の改善



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

2020年 『オンデマンド型』	改善	2021年 『同時発信型』 (Zoom)
資料・教材はMoodleへ添付。 事前に各自 <u>学生自身が印刷し受講するように指示した</u> が× ※1講義約3~4枚(全講義56枚)	改善1 → 教材の事前配布	専用テキスト「ライフキャリアデザインText」準備。 履修登録時に学務事務室へ取りに来るよう指示。 このテキストを受け取ることを受講条件とした。 → 全員受理 。(手元に教材がある状態で受講) ※全講義P56が1冊Textとなる
一方的な講義	改善2 → リフレクション提示と読み上げ	前時リフレクションシートを本時に数名イニシャルでピックアップし、読み上げを行った。 質問に関してはその場で回答し適宜質問をチャットで受け付けた。
学生同士の交流×	改善3 → 交流ワーク	4人のブレイクアウトセッション(自己紹介・近況報告ワーク) 時間内に3回セッションする。
成果物のチェックとフィードバック×	改善4 → 教材画面共有	テキスト内にあるシートを作成し、教員・他学生との共有が可能。 →これによりフィードバックも可能。

結果 (学生より)

2021年『同時発信型』 (Zoom)

→
教材の事前
配布

- ・ 生協や学食に行くのでスムーズに受け取れてよかった。
- ・ 教材がText化されているのは助かる。
- ・ 前回は振り返ることができるので知見が深まった。
- ・ 書き込みによりオリジナルのTextとなった。
- ・ みんなと同じTextが「お揃い感」があつて嬉しかった。

→
リフレクション提示と読み上げ

- ・ 同じ学生のリフレクションの表現は勉強になった。
- ・ 先輩・他学部の意見は参考になった。
- ・ 自分と同じ意見や感情だと分かって嬉しかった。
- ・ 自分と異なる意見や感情は自分への気づきとして学び得るものが多かった。
- ・ 自分のがUPされて、恥ずかしいが嬉しかった。

→
交流ワーク

- ・ 毎回知り合いが増えて友達が増えた。
- ・ 初めて話すのは緊張するが、楽しみな時間になった。
- ・ 前回知り合いになった人と再会すると嬉しい。

→
教材画面共有

- ・ テキスト内にある教材に記述し、そのまま画面上のワークでも見せ合いながらできるのでスムーズだった。
- ・ 先生からのコメントが嬉しかった。
- ・ オンラインなのに毎回リアルに感じるひと時だった。

今後はハイフレックス (OND+同時発信+対面) をめざす。

<コロナ禍での現状と展望> **中山間地域フィールド演習** (集中講義)

○本講義は、中山間地域（島根県雲南市）へ出向き **地域の実態調査**を行い、課題を発見し解決する方法を考える。**最終日、報告（会）を町内会で実施**する。

○現状

▼2020年はコロナ禍の影響で中止。

▼2021年は8月上旬約1週間の通い合宿を実施。

シラバス計画

授業形態	講義・実習
授業の目的	<p>本授業では、中山間地域（島根県雲南市）において、地域の方々と共に、新たな課題解決に挑戦し、地域の未来を自らが切り拓き、提案・実践していくことができる力を養うことを目的とする。</p> <p>▼外部講師協力/雲南市役所・(財)CommunityCareers</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィールドワークを通じて、地域の特徴や課題を的確に理解・把握することができる。 2. 地域の方々と連携しながら、活動に取り組むことができる。 3. 地域の方々との活動を通して、地域の人の想いを知り、自分の考えを持つことができる。
授業の内容および方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 ○ガイダンス ○自分と仲間を知る 【学内または学外】自分と他者を知る（価値観を知る）コミュニケーショントレーニングを行う。 2 ○チームビルディング【学内または学外】チームビルディングとは何か？ワークを通じてスキルアップを行う。 3 ●雲南市にてオリエンテーション 【学外】▼活動する地区の基本情報や課題感を学び、このプログラム期間中の自分自身の目標を設定する。 4 ●地区散策・地区調査【学外】 ▼オリエンテーションで学んだ基本情報をもとに、地区散策し、自分の五感で様々な情報を集める。地区内の“課題”ではなく“イイトコ”を毎日15個/1人発見しラベルに書き起こし、地区分析の手法に沿って分類する。 5 ●地区散策・地区調査【学外】 ▼上記に同じ 6 ●地区調査・分析・中間発表会 【学外】 ▼4-5で見つけたラベルを、KJ法を活用して地区分析し得た結果から、地区の強みをこれからどのようにして維持・発展させていくのかを提案する。 また、その提案に対して、地区の方からフィードバックをもらい、実現に向けてワークショップを行う。 ●参加者振り返り ▼ここまでの目標の達成度を振り返る。 7 ●「成果報告会」 ▼聴講者としてお世話になった地域の方々をお迎えし、その前で発表する。（公民館予定） <p>●リフレクション① これまでを振り返り・他者との関わりの振り返りをまとめ、仲間同士で発表する。</p> <p>●リフレクション② 自分の振り返りをし、仲間同士で発表する</p>

結果→展望

結果

座学では伝えられない地域に特化したキャリア教育の1つとして
課外でのフィールドワークは一定の効果が得られる。

(キャリア形成・**地域と人に関わる力は継続**する)

▼WITH コロナだからこそ **重要なもの3つ**

【重要なもの①】

大学関係者が地域の方々との信頼関係を時間をかけてしっかり構築しておく。

【重要なもの②】

地域の良いところ（現状把握）から課題解決を見出す手法を用いる。

【重要なもの③】

実践者（教員）がパッションをもつ。

=====

展望

地域に根差した大学として

今後も先行事例からの知見を基に、コロナ禍を配慮しながら

フィールド型（対面）を軸にしたカリキュラム開発と実践をしたい。

今後も新たな教育方法を開発し実践する！人と共に、地域と共に、コロナと共に。



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

ご清聴 ありがとうございます。

「コロナ禍のキャリア教育・地域人材育成について」

発表者：国立大学法人島根大学
地域未来協創本部 人材育成・キャリアデザイン部門 部門長
准教授 丸山実子 (MARUYAMA Jitsuko)

Mail:

